

東京の上空をぐるりと旋回し、
鉄道と街と人が織りなす日常の一瞬を鳥の目から記録した、
空撮写真家 吉永陽一の初作品集

吉永陽一 東京ぐるぐる

このたびふげん社は、空撮写真家・吉永陽一の初作品集『東京ぐるぐる』を刊行いたします。

1977年東京都渋谷区生まれの写真作家です。大阪芸術大学写真学科卒業後、建築模型製作会社スタッフを経て、フリーランスとなります。やがて学生時代から憧れていた「空撮鉄道写真」の分野に足を踏み入れ、2011年の初個展を皮切りに、「空鉄（そらてつ）」と呼ばれる独自の世界を切り開き、個展や書籍で作品を発表してきました。

新刊写真集『東京ぐるぐる』には、2010年から2025年まで、セスナやヘリコプターに搭乗し、東京の都市部を上空から撮影した103点の写真が収録されています。

2010年に吉永が初めてホームタウンである渋谷を上空から撮影して以来、渋谷駅、品川駅、東京駅、新宿駅を拠点として東京を旋回するように巡り撮影することがライフワークとなりました。本書は、メガロポリス東京のダイナミックな変遷の貴重な記録でもあり、鉄道と街と人が織りなす日常のワンシーンを、鳥の目という非日常の視点から捉えたものでもあります。それは、私たちが地上から見ているいつもの景色をぐるりと転回してくれるものであり、新しい視座と軽やかな思考を与えてくれるでしょう。

東京の魅力を「歩行者の目線」から知り尽くし、隠れ鉄ちゃんを自称する東京スリパチ学会・会長の皆川典久さんに書き下ろしのエッセイを寄稿していただきました。

「吉永さんは非日常的な視点から、それら「いつもの風景」にも、かけがえのない一瞬や、尊い記憶があることを気づかせてくれます」（皆川典久「鳥の目からの東京物語」より）

プロフィール：吉永陽一 Yoichi Yoshinaga

1977年東京都渋谷区生まれ。主な個展に、「写真家たちの物語 いきづかい いつもの鉄路」（富士フィルムフォトサロン東京・大阪、2018）、「地上絵」（ふげん社、2023）、「THE GALLERY企画展 空鉄 2023空撮鉄路日誌」（ニコムプラザ東京・大阪、2023）など。

主な著作に、「空鉄 鉄道鳥瞰物語」（講談社、2012）、「空鉄の世界」（日本写真企画、2018）、「空鉄 諸国鉄道空撮記」（天夢人、2021）、「秘境駅への旅」（交通新聞社新書、2023）など。



吉永陽一『東京ぐるぐる』

2025年10月22日発行

著者 吉永陽一

寄稿 皆川典久

デザイン 武田厚志

発行所 ふげん社

サイズ A4変形

仕様 並製本・スリーブケース

頁数 120頁

写真点数 103点

定価 6,600円(税込)

ISBN 978-4-908955-45-7

展覧会情報：

吉永陽一 個展「東京ぐるぐる」

ふげん社(目黒)

2025年10月31日(金)～11月23日(日)

▶ご注文はツバメ出版流通まで

FAX：03-3721-1922

TEL：03-6715-6121

mail：info@tsubamebook.com

http://tsubamebook.com

貴店名（番線印）	新刊 ふげん社		https://fugensha.jp https://www.shashin.tokyo/ 返品条件付注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通：川人
	注文数	吉永陽一『東京ぐるぐる』	
ご担当： 様		ISBN 978-4-908955-45-7 C0072	定価：6,600円（本体6,000円＋税10%）